

1997-12

1997文系基礎科目
理論社会学(集中)

マルクス主義 とは何か

1997. 12. 24-26
橋爪大三郎

□0□ 自己紹介

はじめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。1989年より東京工業大学助教授(社会学)。1996年4月より、大学院社会理工学研究科価値システム専攻教授。
著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『橋爪大三郎コレクション(全3巻)』(以上、勁草書房)、『はじめての構造主義』『社会がわかる本』(以上、講談社)、『崔健』『性愛論』(以上、岩波書店)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』(共著、径書房)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『大問題!』(幻冬舎)、『橋爪大三郎の社会学講義』『橋爪大三郎の社会学講義2』(夏目書房)、『科学技術は地球を救えるか』『研究開国』(共編著、富士通経営研修所)、『近代国家とオウム』(共著、南風社)、『新生日本』(共著、学習研究社)、『ゴーマニズム思想講座 正義・戦争・国家論』(共著、径書房)、『これからの日本のかたち』(共著、ダイヤモンド社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローグ・近刊)ほか。

§ 1 ガイダンス: マルクス主義はなぜ重要か?

1. 1 なぜ、いま、マルクス主義なのか?

- * 20世紀はマルクス主義の時代だった レーニンのロシア革命→ソ連→中国 冷戦の終結によって、マルクス主義は「時代遅れ」とされているが、そうか?
- * マルクス主義は、社会科学の最大・最高の「成功例」。 包括的、体系的
また、近代社会、資本主義社会、現代世界についてのまとまった見取り図を与える。
にもかかわらず、マルクス主義は正しく理解されておらず、継承されてもない。
たとえば、東工大に、マルクス主義の講義があるか? これでも大学か?

1. 2 社会主義 (socialism)/共産主義 (communism)/マルクス主義 (Marxism)

★Q1-1 上の三つの思想の、異同を簡単にのべよ (解答用の紙を別に配布)。

A 社会主義……

共産主義……

マルクス主義……

☆講義予定	10:00~11:50	13:00~14:30	14:50~16:10
24日(水)	ガイダンス:マルクス主義はなぜ重要か	マルクス主義はなぜ生まれたか	マルクスの思想
25日(木)	マルクスの経済学	『資本論』の数学的構造	ML主義と共産党
26日(金)	ソビエト帝国の崩壊	毛沢東と鄧小平	マルクス主義から何をうけつぐか

☆試験は1月7日(水)午後3時~ に実施します。

☆自由聴講を歓迎します。座席に余裕がある限り、誰でも自由に聴講できます。

橋爪大三郎 研究室~西4号館603 ☎5734-2667 レポート提出先:同館3階入口郵便受

1. 3 マルクス主義について、簡単にまとめてみよう

- ①マルクス主義は、historische Materialismus (1))にもとづき、人類の歴史は Klassenkampf (2))の歴史であると考える。
- ②マルクス主義は、マルクスの著書“das Kapital”(3))にもとづき、資本主義経済が労働の Exploitation (4))とEntfremdung (5))をもたらすと批判する。
- ③マルクス主義は、マルクス・エンゲルスの“das Kommunistische Manifest”(6))にもとづき、共産党の指導のもと、全世界の Proletariat (7))の団結を呼びかける。

1. 4 マルクス主義の凋落

- * マルクスの予言は、必ずしも実現しなかった。
 - ・マルクスは、ドイツ、イギリスのような先進工業国を先頭に世界同時革命が起こり社会主義、共産主義社会に移行すると予想した。しかし、実際に革命が起こったのは、(8)) (9))といった後発国や植民地だった。(→一国社会主義)
 - ・マルクスは、階級の二極分解(資本家/労働者)が進むと予想した。しかし実際には、膨大な(10))が出現した。労働者は窮乏化せず富裕化した。
 - ・マルクスは、資本主義経済は利潤率が傾向的に低下し、不可避的に崩壊すると予想し、恐慌(景気循環)はその前兆であると考えた。しかし、(11))経済学の出現によって、需要管理政策がとられるようになり、景気循環はコントロールできるようになった。また、科学技術の持続的な進歩によって、経済の拡大が続いている。

★質問があれば、随時受けつけます。挙手するか、紙に書いて教卓に提出して下さい。よい質問には、加点します。

§ 2 マルクス主義はなぜ生まれたか

マルクス主義は、近代主義(modernism)に対するアンチテーゼとして生まれた。そこで、近代とは何だったかを、よく理解しておく必要がある。

2. 1 近代の正統思想とは何だったか

- * 近代は、個人の(1))を最大限に尊重する。それは、共同体の伝統的な(2))を重んずる中世封建社会に対するアンチテーゼであった。
- * 個々人はばらばらであるので、その関係を定めるのが、(3))である。英国の思想家(4))は、(3))のない自然状態において、人びとは「万人の万人に対する闘争」を繰り返すとした。そこで人びとは、(3))を結び、国家権力を設立する。国家権力は、人びとの安全・私有財産・権利を保証する。この考えは、ロック、ルソーの(5))説へと受け継がれた。
- * 近代国家は、人びとの利益のためにあるから、人びとに不利益を与えてはならない。そのため、近代では、個々人が(6))をそなえており、国家はそれを奪

うことができないと考える。(6)はふつうの権利と異なり、一般の法律(実定法)によって制定されたものではなく、(7)法にもとづく。

Cf) トマス・アクィナスは『神学大全』で、法律を、神の法/自然の法/国王の法に区分した。

*近代国家は、すべて法律にもとづいて行動する。この原則を、「法の(8)」という。法に従って行動する人びと(権利の主体)を、(9)という。近代社会の(9)はみずから法を創造し、その法に従う。

Q2-1 江戸の町人は、(9)だったか?

*近代社会では、契約が、社会関係の基本である。個々人は、任意に契約を結んでよい。経済活動(売買)や株式会社をはじめとする近代組織の設立などはすべて、契約にもとづく。

Cf) 契約によらない関係の例

- ・不法行為は、本人の意思によらず、他の個人と法律的な関係(権利義務関係)が発生する。
- ・出生は、本人の意思によらず、他の個人との親族関係(権利義務関係)を生じさせる。

2. 2 マルクス主義は、どこが近代の正統思想に対するアンチテーゼなのか

*近代の正統思想は、社会の成立の出発点に、社会契約があったとするが、その証拠がないとマルクスは考える。むしろそれは、私有財産権を正当化するための、でっちあげ(イデオロギー)だとする。

*契約(合意)が成立していないのだから、近代の資本主義社会は、(4)が描いたような闘争状態、すなわち(10)の舞台にはかならない。

*この状態を克服して、人類社会をあるべき社会、すなわちコミュンに再組織するために、(11)が必要である。(11)によって、人類の闘争状態に終止符が打たれ、人類社会が完成する。

*初期の資本主義社会は、貧しい賃労働者を大量に生み出したので、それをなんとか救済しようと、多くの社会主義思想家が生まれた。彼らは、資本主義社会と別なところに、理想のコミュンを作ろうとしたり(ロバート・オーウェン)、資産階級の寄付を基金に理想のコミュンを建設しようとした(フーリエ)した。マルクス、エンゲルスは、彼らを、空想的社会主義として批判する。そして自らを、(12)と称した。

マルクス主義は、近代の正統思想に反対するが、その骨格はやはり近代思想にもとづいている、と言えよう。

§ 3 マルクスの思想

3. 1 マルクスは、どんな生涯を送ったか

*マルクス(Karl Marx 1818-1883): 哲学者、経済学者、思想家。マルクス主義の祖。

1818. 5. 5 プロイセン(今のドイツ)に生まれる。両親ともにユダヤ人。

1835 ボン大学法学部入学

1836 姉の友人イエニーと婚約

1839 ヘーゲル左派のフォイエルバッハらと知り合う。

1841 イェーナ大学から哲学博士号を受ける。学位論文「デモクリットとエピキュールの自然哲学の差異」

1842 大学講師の道をあきらめ、『ライン新聞』編集長に就任。

1844 『独仏年誌』に「ユダヤ人問題によせて」などを発表。「経済学・哲学草稿」を執筆。

1845 エンゲルス(Friedrich Engels)と協力関係を結ぶ。「フォイエルバッハ・テーゼ」「ドイツ・イデオロギー」を執筆。

1848 『共産党宣言』(共産主義者同盟・綱領)発表。

1849 ロンドンに移住する。生活難のなか、経済学の研究を進める。

1859 『経済学批判』第一分冊の原稿完成。

1867 『資本論』第1巻刊行(初版1000部)

1883. 1. 11 ロンドンで病死。

1885 『資本論』第2巻、エンゲルスの編集によって刊行。

1894 『資本論』第3巻、エンゲルスの「序文」をつけて刊行。

*マルクスは、

- ・(1)人に対する差別と偏見を意識しながら、思想を形成した。
- ・当時の先進哲学であった、(2)の哲学に最も深い影響を受けた。
- ・当時の最先端科学であった、(3)経済学(スミス、リカルド)を徹底的に学んだ。
- ・革命家を志して失敗し、(4)に亡命、執筆に専念した。

3. 2 弁証法とは何か

*弁証法(dialektik) …簡単に言えば、対話のこと。自分の主張に対して、相手が反論を寄せ、討論を通じて高度な結論に至る。～ソクラテス

*ヘーゲル(Georg Wilhelm Friedrich Hegel 1770-1831): ドイツの哲学者・思想家
ヘーゲルの弁証法は、キリスト教の神学を下敷きにしたもの。キリスト教の三位一体説は、父なる神-子なるキリスト-聖霊を、3つのペルソナをもつ1つの実体と考える。ヘーゲルはこれを、即自的な存在(an sich)-向自的な存在(fur sich)-即かつ向自的な存在(an und fur sich)、への運動だと解釈した。

注) 即自的を自体的、向自的を対自的、などともいう。

ヘーゲルの主著: 『精神現象学』 『エンチュクロペディー』

*キリスト教にはもともと、偶像崇拜(物神崇拜)禁止の考え方があった。偶像は、人びとが、自分がよいと考える本質(偉いもの、美しいもの、……)を、物体のなかに外化したもの。それを拝むことは、自分を拝むことである(ゆえに禁止)。偶像崇拜を禁止することと、唯一神を礼拝すべきこととは、同義である。

*ヘーゲルの影響を受けたフォイエルバッハ(L. Feuerbach 1804-1872)は、この考えをキリスト教自身にあてはめ、神は「疎外された人間の本質」であるとして、宗教を批判した。マルクスはフォイエルバッハのこの論法(弁証法による批判)を踏襲した。

3. 3 初期マルクスは、どんなことを考えたか

* 『経済学・哲学草稿(経哲草稿)』(1844)

……この書物で、マルクスは、ヘーゲル哲学の弁証法と、英国古典派の経済学とをミックスし、資本主義社会を批判する立場を固めた。

Marx, Karl 1844 "konomisch-philosophische Manuskripte aus dem Jahre 1844" →1973 Karl Marx Friedrich Engels Werke Erg nzungsband Erster Teil :465-588. Dietz Verlag.

Marx, Karl 1844 →1975 "Economic and Philosophical Manuscripts(1844)" Early Writings, Penguin Books.

マルクス著・城塚登・田中吉六訳 1964 『経済学・哲学草稿』岩波文庫。

* ここで登場する重要な概念……弁証法、類的存在(類的本質)、労働、生産、再生産、疎外、賃労働、分業、私有財産

(引用3.3.1)

「労働者は、彼が富をより多く生産すればするほど、彼の生産の力と範囲とがより増大すればするほど、それだけますます貧しくなる。労働者は商品をより多くつくればつくるほど、それだけますます彼はより安価な商品となる。事物世界の価値増大にぴったり比例して、人間世界の価値低下がひどくなる。労働はたんに商品を生産するのではない。労働は自分自身と労働者とを商品として生産する。しかもそれらを、労働が一般に商品を生産するのと同じ関係のなかで生産するのである。

さらにこの事実は、労働が生産する対象、つまり労働の生産物が、ひとつの疎遠な存在として、生産者から独立した力として、労働に対立するということを表現するものにほかならない。労働の生産物は、対象のなかに固定化された、事物化された労働であり、労働の対象化である。労働の実現は労働の対象化である。国民経済の状態のなかでは、労働のこの実現が労働者の現実性剥奪として現われ、対象化が対象の喪失および対象への隷属として、(対象の)獲得が疎外として、外化として現われる。」(訳86~87頁)

「このことは、宗教においても同様である。人間が神により多くのものを帰属させればさせるほど、それだけますます人間が自分自身のうちに保持するものは少なくなる。労働者は彼の生命を対象のなかへと注ぎこむ。しかし対象へ注ぎこまれた生命は、もはや彼のものでなく、対象のものである。したがって、この活動が大きくなればなるほど、労働者はますます多くの対象を喪失する。」(訳88頁)

(引用3.3.2)

「われわれは、二つの側面から実践的な人間活動の疎外の行為、すなわち労働を考察してきた。(1)労働者にたいして力をもつ疎遠な対象としての労働の生産物にたいする労働者の関係。この関係は同時に、彼に敵対的に対立する疎遠な世界としての感性的外界ないし自然的諸対象にたいする関係である。(2)労働の内部における生産行為にたいする労働者の関係。この関係は、労働者に属していない疎遠な活動としての彼自身の活動にたいする労働者の関係である。……上に(1)において)のべたのが事物の疎外であるのにたいし、これは自己疎外である。

さてわれわれは、これまでにのべた二つの規定から、疎外された労働の第三の規定を引きださなければならない。

人間は一つの類的存在(Gattungswesen)である。……

類生活は、人間においても動物においても、物質的にはまずなにより、人間が(動物と同様に)非有機的自然によって生活するという内容をとする。……人間の普遍性は、実践的にはまさに、自然が(1)直接的な生活手段である限りにおいて、また自然が(2)人間の生命活動の素材と対象と道具であるその範囲において、全自然を彼の非有機的肉体とするという普遍性のなかに現われる。自然、すなわち、それ自身が人間の肉体でない限りでの自然は、人間の非有機的な身体である。人間が自然によって生きるとは、すなわち、自然は、人間が死なないためには、それとの不断の(交流)過程のなかにとどまらねばならないところの、人間の身体であるということなのである。……

疎外された労働は人間から、(1)自然を疎外し、(2)自己自身を、人間に特有の活動的機能を、人間の生命活動を、疎外することによって、それは人間から類を疎外する。すなわち、それは人間にとって類生活を、個人生活の手段とならせるのである。……

……
それゆえ人間は、まさに対象的世界の加工において、はじめて現実的に一つの類的存在として確認されることになる。この生産が人間の制作的活動な類生活なのである。この生産を通じて自然は、人間の制作物および人間の現実性として現われる。それゆえ労働の対象は、人間の類生活の対象化である。

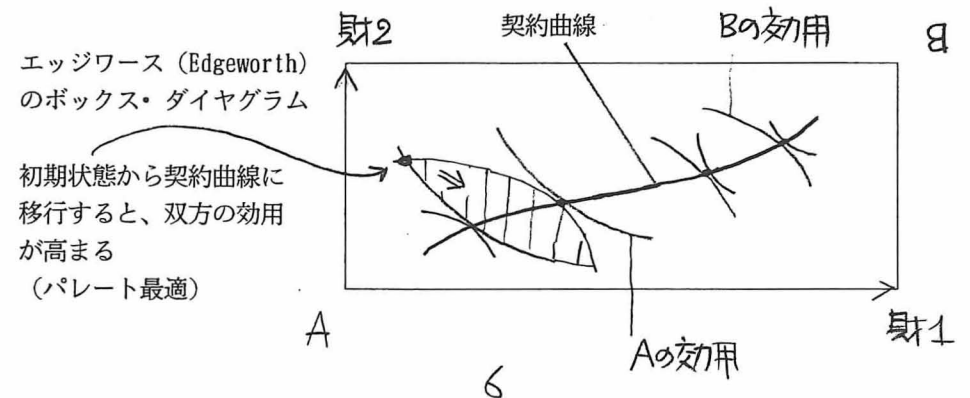
……
こうして疎外された労働は、
(3)人間の類的存在を、すなわち自然をも人間の精神的な類的能力をも、彼にとって疎遠な本質とし、彼の個人的生活の手段としてしまう。疎外された労働は、人間から彼自身の身体を、同様に彼の外にある自然を、また彼の精神的本質を、要するに彼の人間の本質を疎外する。

(4)人間が彼の労働の生産物から、彼の生命活動から、彼の類的存在から、疎外されている、ということから生じる直接の帰結の一つは、人間からの人間の疎外である。人間が自分自身と対立する場合、他の人間が彼と対立しているのである。」(93~98頁)

* 類(Gattung)とは、生物学でいう種のようなものである。ヘーゲルのテキストをみると、類生活は、交尾(Begattung)と関連づけられている。人間は、社会的動物であるという意味だと解釈できる。

* 生産……人間が外界(自然)に働きかけて、事物を加工し、自分の生存に役立てる行為。

* 再生産……人間が自らを産みだす行為。また、労働者が自らの消耗を回復して労働を継続できるようにする行為。。また、資本が損耗を補填して生産を継続できるようにする行為。



* 分業…… A・スミスは、分業が生産の効率を高めると考えた (Smithonian division of labour)。いっぽう、社会学者のデュルケームは、分業が社会的連体を高めると考えた (Durkheimian division of labour)。

分業の結果、交換が生ずる (前ページのボックス・ダイアグラム)。

(引用3.3.3)

「労働の生産物が労働者に属さず、疎遠な力として彼に対立しているならば、そのことはただ、この生産物が労働者以外の他の人間に属するということによってのみ、可能である。」(訳 100頁)

「それゆえ私有財産は、外化された労働、すなわち外化された人間、疎外された労働、疎外された生活、疎外された人間といった概念から、分析を通じて明らかにされるのである。」(訳 102頁)

* マルクス・エンゲルスは、分業が私有財産をうみだし、私有財産が階級をうみだし、階級対立が国家権力をうみだすと考えた。

したがって、階級対立をなくし、国家を廃絶するには、私有財産を廃棄しなければならない。すなわち、共産主義である。

* 逆に言えば、人類社会の出発点には、まだ私有財産も階級分化もなかった段階を考えなければならない。これが、(5) である。歴史は、(5) → 古代の(6) → 中世の(7) → 近世の(8) → ブルジョワ市民革命 → 近代の資本主義社会 → プロレタリア革命 → 共産主義社会、へと進むと考えられた。

* この歴史の原動力は、(9) と(10) との矛盾である。前者は、下部構造とも呼ばれ、人間社会の根底をかたちづくる経済活動のこと。後者は上部構造とも呼ばれ、政治・法・文化を含む広い領域を意味する。

3. 4 なぜ、“万国のプロレタリアは団結”しないといけないのか

* 『共産党宣言』(共産主義者宣言)(1848)

……この書物で、マルクスは、世界同時の暴力革命によって資本社会を転覆し、労働者の独裁によって私有財産制を廃絶、共産主義社会に移行するプログラムを示した。

Marx, Karl; Engels, Friedrich 1948 Manifest der Kommunistischen Partei, →1969 Reclam.

Marx, Karl; Engels, Friedrich 1948 =1888→1985 The Communist Manifesto, Penguin Classics.

マルクス・エンゲルス著 大内兵衛・向坂逸郎訳 1951 『共産党宣言』岩波文庫。

* ここで登場する重要な概念……ブルジョワジー、階級闘争、前衛党、革命、プロレタリア国際主義

(引用3.4.1)

「ヨーロッパに幽霊がでる——共産主義という幽霊である。」(訳37頁)

(引用3.4.2)

「今日まであらゆる社会の歴史は、階級闘争の歴史である。」(訳38頁)

「われわれの時代、すなわちブルジョワ階級の時代は、階級対立を単純にしたという特徴をもっている。全社会は、敵対する二大陣営、たがいに直接に対立する二大階級——ブルジョワ階級とプロレタリア階級に、だんだんと分かれていく。」(訳40頁)

「しかしブルジョワ階級は、みずから死をもたらず武器をきたえてきたばかりではない。かれらはまた、この武器を使う人々をも作り出した——近代的労働者、プロレタリアを。」

ブルジョワ階級が、すなわち資本が発展するにつれて、同じだけプロレタリア階級、すなわち近代労働者の階級も発展する。かれらは、労働を見出すあいだけ生き、かれらの労働が資本を増殖するあいだけ労働を見出す。この労働者は、自分の身を切り売りしなければならぬのであるから、他のすべての売りものと同じく一つの商品であり、したがって、一様に競争のあらゆる変転に、市場のあらゆる同様にさらされている。」(訳48頁)

* プロレタリア……古代ローマの奴隷の一種。最下層の奴隷は結婚を許されず、酷使され使い捨てられたが、これは結局高くつく。そこで下から二番目のプロレタリアは、結婚を許され、生まれた子供が将来の奴隷となることで、自らの階級を再生産した。

* ブルジョワ……もとは、都市の市民の意味。有産階級(資本家階級)を意味する。

(引用3.4.3)

「ブルジョワ階級の存在と支配にとってもっとも本質的な条件は、私人の手中への富の集積、すなわち資本の形成と増殖である。資本の条件は賃金労働である。賃金労働はもっぱら労働者相互のあいだの競争にもとづく。工業の進歩の無意志無抵抗な担い手はブルジョワ階級であるが、この進歩は、競争による労働者の孤立化の代わりに、結合による労働者の革命的団結を作り出す。だから、大工業の発展とともに、ブルジョワ階級の足もとから、かれらに生産させ、また生産物を取得こさせていた土台そのものが取り去られる。かれらは何よりも、かれら自身の墓掘人を生産する。かれらの没落とプロレタリア階級の勝利は、ともに不可避である。」(訳56頁)

(引用3.4.4)

「共産主義者は、他のプロレタリア党から、つぎのことによって区別されるにすぎない。すなわち、一方では、共産主義者は、プロレタリアの種々な国民的闘争において、国籍とは無関係な、共通の、プロレタリア階級全体の利益を強調し、それを貫徹する。他方では、共産主義者は、プロレタリア階級とブルジョワ階級のあいだの闘争が経過する種々の発展段階において、つねに運動全体の利益を代表する。」(訳57頁)

(引用3.4.5)

「共産主義者は、自分の見解や意図を秘密にすることを軽蔑する。共産主義者は、これまでのいっさいの社会秩序を暴力的に転覆することによってのみ自己の目的が達成されることを公然と宣言する。支配階級よ、共産主義革命のまえにおののくがいい。プロレタリアは、革命において鎖のほかに失うべきものをもたない。かれらが獲得するものは世界である。」

「万国のプロレタリア団結せよ！」(訳87頁)

§ 4 マルクスの経済学

4. 1 労働価値説

* 『資本論』 (1867)

……この書物で、マルクスは、資本主義経済のメカニズムを解明し、生産力の発展につれてこのシステムが、内部矛盾のため崩壊するであろうことを論証した。

Marx, Karl 1867 Das Kapital (Erster Band) → 1947 Dietz Verlag.

Marx, Karl 1867 → 1976 Capital (Volume 1), Penguin Books.

マルクス・エンゲルス 鈴木鴻一郎訳 1980 『資本論』 (中公バックス世界の名著 54, 55)、中央公論社。

ここで登場する重要な概念……資本家的生産様式、商品、使用価値、交換価値 (あるいは単に、価値)、生産手段、利潤、剰余価値

(引用4.1.1)

「資本家的生産様式が支配的である社会の富は、個々の商品がその要素となった“商品の膨大な集積”として現象する。それゆえ、われわれの研究は、商品の分析から始まらなければならない。」(ディーツ版47頁・橋爪訳)

注) マルクス自身は「資本主義」という言葉を使っていない。

「資本家的生産様式 (kapitalistische Produktionsweise)」が、『資本論』での正式な用語である。

* マルクスの価値論を簡単にまとめると、以下のようである。

- 1) すべての商品は、(1) (Gebrauchswert) と (2) (Tauschwert) とをもつ。前者は個人的・主観的なものだが、後者は客観的なものである。
- 2) 商品が交換されるのは、その (2) が等価だからである。多くの商品が交換されているうちに、ある商品が、一般的等価形態 (価値の尺度のようなもの) として現れてくる。
- 3) 一般的等価形態である商品は、それ自体に価値がうるように人びとに思われはじめる結果、(3) (Geld) に転化する。

* マルクスは、こうした商品の価値の正体はなにかと考え、アダム・スミス、D・リカードにならって、労働であると考えた。→ (5)

[ちょっと寄り道]

* 価値論の系譜をふりかえると、最初に登場したのは、(4) 説である。これは、有用なものは値段が高く、有用でないものは値段が低いとするもの。しかしこの説は、水のようにきわめて有用なものがただ同然であり、ダイヤモンドのように用途のないものが高価であるという反例があるため、説得力を持たなかった。そこで登場したのが、(5) 説である。この学説は、商品を生産す

るのに要した労働の量が、その商品の価値であると考えた。

いっぽう、(4) を改良して現れたのが、(6) 説である。この学説は、商品の全体効用ではなく (6) に比例して商品の価格が決まると考え、さきほどの反例を解消している。ワルラス、メンガー、ジェボンズの3人が独立にこの学説を唱え、今日の近代経済学の源流をかたちづかった。

* 経済学では一般に、商品の生産に必要な生産要素を、三つに大別する。

- 1) (7) ……それ自身、生産された商品で、再び生産過程に投入される。
- 2) (8) ……その社会の経済システムでは生産できない自然の事物。
- 3) (9) ……労働者の活動。

このおのおのに対して、利子、地代、賃金が支払われる。

* (7) ~ (9) のうち、その社会の経済で生産できないという意味で、本源的な生産要素は、後二者であり、そのうち本当の意味で価値を生み出すのは (9) だけである、とマルクスは考えた。

4. 2 資本とは何か

* しかし実際には、資本が価値 (利子) を産み出すように見える。

マルクスは、市場における交換、ならびに資本の運動を、つぎのように分類した。

$$\begin{array}{rcl}
 W - W' & : & (10) \\
 W - G - W' & : & (11) \\
 G - W - G' = G + \Delta G & : & (12) \\
 G - G' = G + \Delta G & : & (13) \\
 G - W - W' - G' = G + \Delta G & : & (14)
 \end{array}
 \left. \vphantom{\begin{array}{rcl} \\ \\ \\ \\ \end{array}} \right\} \text{利子産み資本}$$

ただしここで、Wは(15) を、Gは(16) を表す。資本の本質は、G → G' (= G + ΔG) なる、価値増殖運動にある。

* このうち (14) の価値増殖メカニズムを、マルクスはもう少し詳しく、つぎのように分析する。

$$G - W \begin{cases} Pm \\ \dots\dots W' - G' \\ A \end{cases} \quad \begin{array}{l} \text{ただし、} \\ Pm : \text{生産手段 Produktionsmittel} \\ A : \text{労働力 Arbeitskraft} \end{array}$$

この過程で、なにゆえ、価値増殖が生じるのか?

(12) の場合は、空間的または時間的に異なる市場での価格体系の差異が、利潤の源泉であった。その本質は投機であり、しかも、その結果、価格体系の差異は徐々に縮小していく (その結果、利潤の源泉そのものが消滅する) という、自己否定的な活動であった。

(13) の場合は、直接の搾取が、利潤の源泉であった。貸し手の利潤は、借り手の損失である。その結果、社会の富は増大しない (価値増殖は起こらない)。

(¹⁴) の場合はそれに対して、商品の売買は、同じ市場の同じ価格体系のなかで行なわれている。G-Wも、W'-G'も等価交換であって、その取引自体には利潤の生じる余地がない。したがって、価値増殖が生じるとすれば、それは生産過程(図中の……の部分)においてであるしかない。商品Wが、商品W'に変形するあいだに、価値の増殖が生じている。

* マルクスは、この価値増殖の秘密を、(¹⁷)の価値と(¹⁸)の価値との差に見出した。

前者は、労働がどれだけの価値を産みだすかという、労働力の使用価値であり、後者は、労働がどれだけの費用(賃金)によって再生産されるかという労働力の交換価値である。資本家は、労働者に賃金を払っても、労働者の労働を使用すればそれ以上の価値を産みだすことができるので、利潤を手にできる。

$$\begin{array}{l} \text{労働力の使用価値} - \text{労働力の価値} = (\text{ }^{19}\text{ }) \\ (\text{労働の産みだす価値}) \quad (\text{再生産費用}) \end{array}$$

* (¹⁹) は、生産手段の所有者である資本家に帰属する。それを労働者の労働が産みだしたにも関わらず、労働者には帰属しない。これが資本家による労働者の(²⁰)である。

4. 3 なぜ、資本主義社会は解体するのか?

* 資本は、生産手段=(²¹)と、労働力=(²²)とによって構成される。技術が進歩し、資本が蓄積され、生産力が拡大すると、不変資本が相対的に増大し、可変資本が相対的に減少する。これを、資本の有機的構成が変化するという。この結果、元の資本に対して、利潤を産みだす労働力の占める割合は、徐々に低下していく。したがって、資本が剰余価値を産みだす割合も、資本家の手にできる利潤も、徐々に少なくなっていく。そしてついには、限りなくゼロに近くなる。こうして、あせった資本家は、労働者の賃金をますます切り詰め、生存水準以下に低めようとする。労働者はこれに反抗して立ち上がり、資本家と私有財産制度を否定する暴力革命がおこる、というのが、マルクスの描いたシナリオだった。

[産業予備軍説]

* 労働者の賃金が、生き残りぎりの最低水準に維持されるメカニズムを、マルクスはこう考えた。
技術革新が起こり、生産力が拡大する結果、同じ商品を、以前よりも少ない労働で生産できるようになる。この結果、不用となった労働者は解雇され、失業者となる。彼ら(産業予備軍)が、どんなに安い賃金でも就職しようとして町にあふれていて、労働力が供給過剰となるため、賃金の相場はこれ以上下がれないところ、つまり生存水準に維持される。

[資本主義経済とは何か]

* 資本主義経済の特徴は、一般の商品の市場に加えて、生産要素の市場——資本市場、

土地市場、労働市場——が成立していることである。なかでも、労働市場が成立していることが、根本的である。

- * 近代資本主義社会の不可欠の構成要素として、しばしばつぎのものがあげられる。
 - ・ 科学技術……合理的な予測にもとづいて、生産過程をコントロールする。
 - ・ (²³) ……借方/貸方を照合しつつ、資本の利益率を合理的に表示する。
 - ・ 官僚制度……文書、権限と責任の原則にもとづき、形式合理的に組織を運営する。
 - ・ (²⁴) ……商業銀行が当座預金によって信用を創造し供与する。

§ 5 『資本論』の数学的構造

5. 1 マルクス経済学と近代経済学

- * 労働価値説をとり『資本論』を原典とするマルクス経済学と、限界革命(marginal revolution)以後の近代経済学とは、その前提が異なるため、互いに非難を応酬した。労働価値説に対する批判としては、「単なる循環論法にすぎない」とする、バーム・バヴェルクの批判が有名である。限界効用学説に対する批判としては、「効用関数など観察できない(存在する保証がない)」とする批判が代表的である。
- * マルクス経済学と近代経済学の関係がどのようなものであるかは、長いあいだははっきりしなかった。サミュエルソンも1960年代~70年代にかけて、論文をいくつか書いたが、はっきり決着をうけるには至らなかった。
- * 森嶋通夫氏が『マルクスの経済学』を著すにおよび、『資本論』を完全に近代経済学のモデルで表現し、解明できることが明らかになった。

Morishima, Michio 1973 Marx's Economics: A Dual Theory of Value and Growth, Cambridge University Press. =1974 高須賀義博訳『マルクスの経済学——価値と成長の二重の理論——』東洋経済新報社。

5. 2 産業連関論

- * 近代経済学で、『資本論』のモデルを表現する前提となるのは、産業連関論である。この理論は、W・レオンチェフが始めた、投入産出分析(Input/Output analysis)が基本になっている。
- * レオンチェフ・モデルは、つぎの前提をおく。
 - 1) (非結合生産) ……どの産業も、1種類の財のみを生産する。(結合生産や副産物(ゴミなど)はない。)
 - 2) (固定投入係数) ……どの産業でも、1単位の財を生産するのに必要な生産要素の割合は一定である。(このため、モデルは線型となる。)
- * レオンチェフ・モデルは、n種の産業の(粗)生産量をn個の未知数とする、n本の連立方程式であるから、それ以外のパラメータ(最終需要=純生産量)が与えられれば、原理的に解ける。

★Q5-1 2種(または3種)の産業からなる経済を考え、適当な数値を与えて、レオンチェフ・モデルをつくり、解いてみよう。

5. 3 『資本論』の数学的構造

* 別に配布したプリント「マルクスの経済学」にそって、授業を進める。

* 第1章 価値の二重の定義

- ・『資本論』におけるマルクスの、価値のふた通りの定義が同値であること。
- ・国民生産物の価値は、総雇用に等しいこと。

* 第2章 隠された仮定

- ・資本財産業の連関行列が「生産的」であることが、資本主義経済が存続できるための必要条件であること。
- ・価値が正であるための条件……1) 資本財産業の連関行列が非負、分解不可能、生産的で、労働投入ベクトルが非負・非ゼロである。2) 賃金財産業への投入が非負・非ゼロである。

* 第3章 相対価格の量的決定

- ・技術変化にともなう価格の変化の分析。労働を節約する当の産業でもっとも大きな商品価値の下落が生じ、他の産業でも価値の下落が生じる。

* 第4章 価値・使用価値・交換価値

- ・価値は、単純商品生産社会における均衡価格である。
- ・労働者の需要が弾力的であっても、上の結論は変わらない。

* 第5章 剰余価値と搾取

- ・搾取率の3通りの定義は、同値である。
- ・全産業が正の利潤を獲得することと、搾取率が正であることは同値である。このことは、資本主義経済の存続にとって、労働者の搾取が必要かつ十分な条件である。

* 『資本論』の数学的構造についての、まとめ

- 1) 『資本論』の内容は、産業連関論のレオンチェフ・モデルをベースに表現できる。
- 2) 価値は、特定の前提のもとで定義でき、説明力をもつような仮説構成体である(実体ではない)。
- 3) 搾取は、個々の資本家・対・労働者の関係ではなくて、経済システム全体が不可避に帯びる構造的な効果である。資本家は、利潤をあげ企業を存続させようとする限り、労働者を搾取するほかはない。

§ 6 マルクス・レーニン主義と共産党

6. 1 マルクス以後の共産主義

* マルクスの正統を受け継ぐのは、ドイツの共産主義運動(社会民主党)のはずであった。しかし、同党は、カウツキーの⁽¹⁾ (=マルクスののべたことが一字一句正しいと考える立場)、ベルンシュタインの⁽²⁾ (=現実にあわせてマルクスの主張を変更してよいという立場)に分かれて争い、革命も起こせなかった。

それに代わって、今世紀の初頭に革命政権の樹立に成功し、国際共産主義運動を指導する権威を獲得したのが、ロシアのレーニンである。

* レーニンが継承したマルクス主義を、⁽³⁾)という。(それに対して、西ヨーロッパ独自のマルクス主義を、⁽⁴⁾)という。

6. 2 レーニンとロシア革命

* レーニン(Vladimir Il'ich Lenin 1870-1924):ロシアの革命家、政治家。ボルシェビキ党を組織し、ロシア革命を指導する。

『唯物論と経験批判論』(1908)……物理学者E・マッハの学説に対抗、唯物論の優位を説く。

『帝国主義論』(1916)……資本主義は、新しい市場と利潤を求めて植民地を争奪しあい、世界戦争をひきおこす。その機会に革命を。

『国家と革命』(1917)……国家は階級弾圧のための暴力装置である。団結した労働者の銃口から政権が生まれる。

* レーニンは、秘密警察の弾圧に対抗するため、秘密警察にそっくりの地下組織(共産党)をつくりあげた。その組織原則を、⁽⁵⁾)という。だがその実、「民主」の部分は形ばかりで、「集中」すなわち上部の権威が絶対であった。

* 共産党は、階級闘争を指導する国際的な機関である。なにが真理であるかを決定する権威をもち、いつが革命的情勢であるかを判断する。共産党の判断は絶対である。共産党の指令に従わず、革命的情勢なのに行動を起こさなければ、⁽⁶⁾)である。逆に、革命的情勢でないのに行動を起こせば、⁽⁷⁾)と言われる。共産党は、法皇と同じく、不可謬なのである。

* ロシア共産党は、ソビエト(細胞のようなもの)を単位に作られた。ロシアは、産業化が十分に進んでいなかったため、労働者のソビエトに加えて、農民のソビエトも多くあり、労農ソビエト(労働者と農民が同盟する革命)というかたちをとった。ソ連の国旗(鎌と槌)がそれを表している。

* 軍事力を政権の基盤とするソ連は、軍隊(赤軍)のなかに共産党の⁽⁸⁾)をくまなく配置した。作戦命令は、司令官の署名に加え、⁽⁸⁾)の副署がないと、効力をもたない。このシステムは、中国共産党や、国民党にも共通している。共産党の政権が軍事クーデターによって覆った例はない。

* レーニンの死後、目立たなくて有能でないとされた⁽⁹⁾)が後継者に指名された。しかし、⁽⁹⁾)は実権を握ると、反対派をつぎつぎ粛清し、絶対的な権力を握った。

Q6-1 もしもあなたが、当時の共産党の知識人で、ある問題について党が間違っていると確信したら、どのように行動することができるか?

6. 3 ソビエト連邦と社会主義経済

* 共産党は、政権を確立するとまず私有財産・企業の没収をはかったが、経済が混乱したので商品経済を復活する(ネップ政策)など、試行錯誤を繰り返す。そしてスターリンが五ヶ年計画を成功させると、急速に成長をはじめ、⁽¹⁰⁾)の体制を確立した。

* なぜソ連の重工業は急速に発展したか。それは、農村を徹底的に搾取して、資源をどしどし工業部門に投入した点にある。農民は有無を言わず、集団農場や国営農場に押し込まれ、文句を言うとは粛清されたり、シベリアに送られたりした。このため、数百万人が死亡したと言われる。作家⁽¹¹⁾)の『収容所列島』は、こうした事情をよく描いている。

* この結果、ロシアの農民は無気力となり、農業生産はのび悩む。これがのちに、ソビエト経済のアキレス腱となった。

6. 4 共産主義インターナショナル

* 国際的な権威を確立したロシア共産党は、共産主義インターナショナル（コミンテルン）を設立して、国際共産主義運動の指導に乗り出した。このインターナショナルは歴史上、三番目の試みだということで、⁽¹²⁾)とよぶ。ドイツでは1921年、コミンテルンの指導のもとに武装蜂起をはかったが失敗し、組織が壊滅した。それ以後、ソ連共産党が実質的に世界革命の司令塔となる。

* コミンテルンは、各国にオルグ（オルガナイザーの略）を派遣して、インターナショナルの支部（各国共産党）を設立した。日本共産党（1922- ）も、中国共産党（1921- ）も、元はと言えば、こうして設立された支部である。

* 当時のコミンテルンは、各国の実情を無視して、勝手な指導をした。中国共産党は、ソ連の指導を受け都市で運動しているあいだはちっともうまく行かず、壊滅一步手前に追い込まれた。そこで毛沢東を指導者に選び、農村を基盤に運動するようになってやっと息を吹き返した。日本共産党には、「32年テーゼ」が与えられて、日本は地主と資本家が連合する遅れた絶対君主制の国家であるから、まず君主制打倒、つぎに共産主義革命をめざすという⁽¹³⁾)論が絶対のものとなった。この分析を正しいとするグループが「講座派」となって、日本共産党の系譜につながり、これに異を唱えるグループが「労農派」として、日本社会党の系譜につながっている。

* ソ連は、連合国と関係改善をはかるため、1943年にコミンテルンを解散した。

6. 5 比較生産費説

* マルクスの『資本論』は、終始一貫、一国の資本主義経済を論じていて、国際経済を論じていない。それは、異なる経済では技術水準や生産性も異なるので、価値がうまく定義できないためである。しかしレーニンは、『帝国主義論』で、利潤を求めて資本家が植民地に進出するという議論を展開した。この議論の整合性を考えるため、リカルド(1772-1823)の比較生産費説を検討してみる。

* Ricardo, David 1817 The Principles of Political Economy and Taxation, =1928
小泉信三訳『経済学及課税之原理』岩波文庫。

2財を生産する二国の生産効率は、各1単位あたり、以下のようである。(p. 82)

	ブドウ酒	衣料	
イギリス	120人	100人	このようであるため、イギリスはブドウ酒をポルトガルから輸入し、ポルトガルは衣料をイギリスから輸入することが有利となる。貿易は、どちらの財もポルトガルのほうがより効率的に生産できるにも関わらず、生じる。
ポルトガル	80人	90人	

Q 6-2 数値を取りかえて、右のことを確かめてみよ。

* リカルドは、以上のように投下労働量で各財の相対価格を示したが、実はこのことは貿易が起こる理由として本質的でない。貿易によって両国に利益が生じるための必要

かつ十分な条件は、両国の相対価格が異なること、これだけである。

Q 6-3 上の命題を考察せよ。できれば、証明せよ。

Q 6-4 ある国のある財の絶対価格（生産費）が別の国よりも安いことは、その財が輸出されることの必要条件でも十分条件でもないことを証明せよ。

* 両国の各財の相対価格が以下のように与えられているとする。すると、イギリスからポルトガルへブドウ酒の輸出が生じ、イギリスからポルトガルへ衣料の輸出が生ずる。

	ブドウ酒	衣料	
イギリス	£ 2	: £ 1	Q 6-5 このことを確かめよ。
ポルトガル	\$ 3	: \$ 2	

この場合、イギリスはポルトガルに対して、ブドウ酒よりも衣料において、比較優位 (comparative advantage) をもつ、という。逆の場合は比較劣位 (comparative disadvantage) という。

* リカルドは以上の考察にもとづいて、⁽¹⁴⁾) (free trade) がどの国にとっても最善の策であると主張した。今日の世界貿易機構 (WTO) は、関税やその他の障壁を撤廃し貿易を盛んにすることを目的としているが、このリカルドの考え方をベースにしている。

* 貿易の結果、各国の国内価格は、しだいに均等化していき、ついには完全に一致すると期待できる。

この結果を拡張した定理として、「ヘクシャー-オリーナー-サミュエルソンの定理」(国際貿易の基本定理) が重要である。この定理は、一定の仮定のもとでは、自由貿易を進める結果、各国の商品価格のみならず、生産要素の要素価格 (具体的は、利子・地代・賃金) が均等化することを保証する。

* この定理が妥当するすれば、自由貿易を進めた結果、先進国も第三世界も賃金 (すなわち労働者の所得) が同じになると期待できることになる。

§ 7 ソビエト帝国の崩壊

7. 1 ソ連はなぜ行き詰まったか

* 誰もソ連が崩壊すると思わなかったころ、ソ連の崩壊の予言する一冊の書物が現れた。
小室直樹 1980『ソビエト帝国の崩壊——瀕死のクマが世界であがく』(カッパ・ブックス) 光文社

この書物は、公表されたデータのみにもとづいて、以下の事実を明らかにした。

- ・ソ連の工業は、品質管理に問題があり、軍事力も、ハイテク工業力も西側先進国に遠く及ばないこと。
- ・重化学工業を中心に躍進してきた計画経済は、かつての強みがいまや仇となって、構造的な非効率に悩んでおり、闇経済 (市場経済) なしにはやっていけなくなって

いること。

- ・ソ連の農業は、勤労意欲の減退と農業政策の不手際のため、構造的な不作為が続いて立ち直れないこと。
- ・階級がないはずのソ連に、赤い貴族（¹）が巣くって、人民の生活とかけ離れた贅沢三昧にふけていること。
- ・フルシチョフのスターリン批判は、共産党の権威をそこなったため、人びとは急性のアノミーに陥り、政府と共産党に対する信頼を失っていること。
- ・これら階級対立と内部矛盾のため、ソ連はやがて、解体の危機に瀕すること。

7. 2 ゴルバチョフのペレストロイカ

- * 重い軍事費の負担に耐えかね、アメリカとの関係改善をはからなければ経済が立ち行かないと判断したソ連指導部は、ゴルバチョフをリーダーに迎えた。ゴルバチョフは改革政策（ペレストロイカ）を推進したが、その結果、ソ連・東欧は解体してしまった。その理由は、
 - ・東欧はもともと、ソ連が国防上の理由から無理やり共産化した地域で、強固なナショナリズム、反ソ連感情、自由主義の伝統があった。したがって、共産主義のイデオロギーが失墜し、軍事的な緊張が緩むと、瓦解する運命にあった。
 - ・ソ連は、多民族が構成した人工国家で、プロレタリア国際主義によって束ねられていた。したがって、共産主義のイデオロギーが失墜し、民族主義（ロシア／反ロシア感情）が復活すると、解体する運命にあった。
 - ・計画経済から自由主義経済への切り換えは、うまくいかなかった。まず、市場経済を支えるに足る人びとのエートス（行動様式）が成立していなかった。つぎに、政治改革が先行して、自由選挙の結果、共産党がまっ先に解体してしまったため、有効な経済政策が打ち出せなかった。配給が機能しなくなったため悪性のインフレ・貨幣価値の下落が起こり、税収が不足し、公共部門が機能しなくなった。
- * 中国は、こうした状況を見て、ソ連の二の舞を避けようとしている。

§ 8 毛沢東と鄧小平

8. 1 毛沢東と中国共産党

- * 中国は、ソ連よりもはるかに工場労働者が少ない農業国家であったため、ソ連のような「労農同盟」さえ不可能だった。中国の革命の主体は、農民となった。人民解放軍は農村を根拠地とし、ゲリラ戦を展開する農民の軍隊である。
- * 毛沢東（1893-1976）は、先進工業国で工場労働者を主体とする革命の理論であるマルクス主義を、半植民地で農民を主体とする革命の理論に作りかえるために必要な、権威であった。毛沢東が「発展」させたマルクス・レーニン主義を、（¹）という。
- * 革命の初期、毛沢東は地主の土地を取り上げ、農民に分配したので、農民は喜び生産意欲も高まった。これに気をよくした毛沢東は、農民から再び農地をとりあげて人民公社を組織した。この結果、農民は、生産意欲をなくしていく。
- * 中国革命は、農民を主体としたため、スターリンのように農民を搾取することができ

なかった。最初、経済建設に必要な資本は、ソ連の援助に頼る計画だった。しかし、ソ連の（²）批判をきっかけに起きた（³）を機に、ソ連は援助をやめてしまう。そこで、必要な資本を国内で供給するための（⁴）路線が唱えられた。

- * 経済計画に無知だった毛沢東は、（⁵）（＝農民の大量動員）によって経済建設を進める（⁶）を開始した。「英国を追い抜く」を合言葉に、農民が粗悪な鉄を量産し、資源と労力を無駄にするうち、飢饉が忍びよっていた。農民はなげなしの収穫を国に奪われたあと、食糧もないまま移動を禁止された。60年代はじめの数年で、約2000万人が餓死したともいう。
- *（⁵）失敗の責任をとらされた毛沢東は、経済運営の実権を国家主席の（⁶）に奪われ、巻き返しを狙って逆襲に転ずる。それが、（⁷）である。
- *（⁷）は、世界でもまれに見る革命である。毛沢東個人が大衆に呼びかけて、国家と共産党の機関を攻撃・破壊したのだ。（ただし人民解放軍には、文化大革命は及ばなかった。）
- * このようなことが可能だったのは、毛沢東の論文「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」にいうような、人民内部にも（⁸）がありうるという思想のためである。資本家／労働者の階級対立があいまいだった中国革命は、誰が革命的で誰が反革命的であるかについての混乱をうみ、情勢のいかんによっては誰もが打倒の対象になるという暗黒政治を生んだ。
- * 文化大革命の現実、人びとに、革命と共産党に対する幻滅感を与え、政治情勢に左右されまいという保守的傾向をうみだした。

「矛盾論」（1937）→『毛沢東選集』（1951）第1巻 299-340頁＝毛沢東選集刊行会訳「矛盾論」『毛沢東選集』第3巻9-66頁、三一書房。

「人民内部の矛盾を正しく処理する問題について」（1957）→『毛主席語録』

重要な概念……矛盾、唯物弁証法、主要な矛盾、敵対関係、人民内部の矛盾、人民公社、プロレタリア文化大革命、紅衛兵、造反有理、愚公移山、走資派、下放

8-2 鄧小平と改革開放

- * 軍事上の理由と、経済上の理由から、70年代、中国はアメリカと関係改善に踏み切った。鄧小平は、復活をとげると、人民公社を廃止し、（⁹）制度を導入して、余剰農産物を自由市場で売ってよいことにした。この改革は成功し、農民の所得は上昇し、経済成長が始まった。
- * つぎに、深圳に経済特区を設け、外資を導入して輸出型の産業基地を作った。これが成功して、中国の沿海部はアジアNIE Sと結びついて、発展の軌道に乗る。この高度成長は、1989年6月4日の（¹⁰）にも関わらず継続し、現在まで続いている。
- * これを踏まえて、中国は（¹¹）経済の旗を掲げた。これは、マルクス主義としては画期的なことである。マルクス主義の常識では、商品経済までなら許されるが、（¹²））といえば、

資本主義と同義である。共産党が⁽¹²⁾ を掲げるとすれば、天使が悪魔と友達になっ
たような大事件なのだ。

* 残る中国の問題は、赤字を抱える国営企業の民営化。内陸開発など国内の不平等発展
の問題。それと、政治の民主化（共産党の一党支配に終止符を打つこと）である。

Q 8-1 中国の改革開放政策がうまくいき、ソ連の改革が（いまのところ）うまく進ん
でいないのは、どのような理由が考えられるか？

§ 9 日本共産党と新左翼

9. 1 日本共産党と日本のマルクス主義

* 戦前の日本共産党は、非合法であったため拡大できず、特高（特別高等警察：思想犯
や革命運動を取り締まるための組織）に取締られ、幹部はほぼ全員捕まって⁽¹⁾
してしまっただけで、⁽²⁾ 氏のみは、獄中でも⁽¹⁾ しなかつたため、指導力を獲得した。

参考文献 立花隆 1978『日本共産党の研究（上）（下）』講談社（文庫もあり）
田川和夫 1965『日本共産党史』現代思潮社

* 戦後、活動を再開した日本共産党は、占領軍と良好な関係にあったが、米ソ対立が厳
しくなる兆しをみせたため、⁽³⁾ の対象となり、反米・反政府運
動に転換した。その後、火炎ビン闘争や山村工作隊などの過激路線をへて、50年代の
なかばに穏健路線に転換する（六全協）。それに不満をもつ若手の党員がとび出した
り除名されたりして、新しい組織をつぎつぎに旗揚げした。これらを⁽⁴⁾
と総称する。

9. 2 新左翼

* 60年安保の際、革命を目指して全学連（主流派）を指導したのが、⁽⁵⁾
（共産主義者同盟の略。安保ブントという）である。いわば素人の集団であったため
安保闘争が失敗すると、分裂し、小さな組織に分かれた。マル戦派、関西派、赤軍派、
ML派（毛沢東思想派）など、数え切れない。

* ⁽⁵⁾ ではだめだ、もっと革命的な組織をつくろう、と結成されたのが、⁽⁶⁾
（略して革共同）である。これはすぐさま、路線対立を起こして
⁽⁷⁾ 派と⁽⁸⁾ 派に分裂する。

* このほかに、第4インターを名乗るグループ、社会党の下部組織・社会主義青年同盟
（社青同）の解放派、協会派、構造改革派、などがある。これらは学生運動の主導権
をめぐる離合集散を繰り返す、ついには内ゲバ殺人の応酬に発展して、急速に人び
との支持を失っていった。

§ 10 マルクス主義から何を受け継ぐか

★Q10-1 マルクス主義からなにを受け継ぐか（受け継がないか）を考えてみよう。

19

解答例

§ 1 社会主義 自由放任にまかせず国家が介入し、再配分をはかる政策の総称
共産主義 私有財産制を廃止して、階級のない共同社会の実現をめざす運動
マルクス主義 共産主義のうち、マルクスの思想にもとづくもの

1 史的唯物論 (または唯物史観)	7 封建制(社会)	5 民主集中制
2 階級闘争	8 絶対王制	6 右翼日和見主義
3 『資本論』	9 生産力	7 左翼小児病
4 搾取	10 生産関係	8 政治委員
5 疎外		9 スターリン
6 『共産党宣言』 (共産主義者宣言)	§ 4	10 社会主義計画経済
7 プロレタリア (無産階級)	1 使用価値	11 ソルジェニーツィン
8 ロシア(ソ連)	2 交換価値	12 第三インター
9 中国	3 貨幣	13 二段階革命
10 中流階級	4 (素朴)効用	14 自由貿易
11 ケインズ	5 労働価値	
	6 限界効用	§ 7
	7 資本	1 ノメンクラトゥーラ
	8 土地	
	9 労働	§ 8
	10 物々交換	1 毛沢東思想
§ 2	11 商品交換	2 スターリン
1 自由	12 商業資本	3 中ソ論争
2 慣習	13 金融資本 (高利貸資本)	4 自力更生
3 契約	14 産業資本	5 大躍進
4 ホップス	15 商品	6 劉少奇
5 社会契約	16 貨幣	7 文化大革命
6 基本的人権	17 労働	8 敵対的矛盾
7 自然	18 労働力	9 請け負い
8 法の支配	19 剰余価値	10 天安門事件
9 (近代)市民	20 搾取	11 社会主義市場
10 階級闘争	21 不変資本	12 市場経済
11 暴力革命 (共産主義革命)	22 可変資本	
12 科学的社会主义	23 複式簿記	§ 9
	24 割引手形	1 転向
§ 3		2 宮本顕治
1 ユダヤ		3 レッド・ページ
2 ヘーゲル	§ 6	4 新左翼
3 英国古典派	1 教条主義	5 共産同
4 ロンドン(英国)	2 修正主義	6 革命的共産主義者同盟
5 原始共産制	3 マルクス・レーニン主義	7 革マル
6 奴隷制(社会)	4 ヨーロッパ・マルクス主義	8 中核

★試験 1月7日(水) 3:00~4:30

会場: W531(この教室)~96, 94 & W521~それ以外(97, 95, 93~)

問題……知識問題: 開始の後、20分で解答・提出~持込み禁止(!) 30点

論述問題: そのあと、残り時間で解答~持込み可(!) 60点

* 答案を採点したあと、希望者に返却します(追って掲示します)。

★試験に代わるレポート……今回の講義に関係あるテーマを各自選び、自由に論述せよ。

A4で5枚程度 締切: 1月16日(金) 提出先: 西4三階入口郵便受け

「試験に代わるレポート」と明記すること!

☆任意レポート 分量・タイトル・提出時期は自由 任意レポートと明記すること。